



「痴呆」と「もの忘れ」とはどのように違うのでしょうか。

「買い物に出かけたが、目的の物を買って忘れて帰ってきたしまった…」など、生活をしていくうえで、ちよつとした「もの忘れ」は誰にでも経験があるものです。

「痴呆」とは、単なる「もの忘れ」ではなく、今がいつ（季節や曜日）で、自分がどこにいるのかの見当もあまいになってきます。自分で判断する力が低下し、今までできていたことができなくなったりするため、ひとりでは生活がしにくくなってきました。



●痴呆の種類について

痴呆の原因疾患はいろいろあります。痴呆の多くは脳の病気であるアルツハイマー型痴呆と、脳の血管障害が原因の脳血管性痴呆、加齢による老年性痴呆に分けられます。

アルツハイマー型痴呆は、

脳の細胞がいたみ引き起こされることがあります。しっかりとっている時があったり、あまいなことをいう時（まだら痴呆）があったり、感情が不安定になりやすくなります。

老年性痴呆は70歳以降に多く、ゆつくりともの忘れが進行していきます。ちよ

つとしたことを忘れてしまったり、計算ができなくなったり、活力が低下したりします。

●今月のテーマ

痴呆の方との上手な付き合ひ方

保健師/大山泉

VOL. 3

はつきりとした原因は不明ですが、通常の老化以上に脳の働きを低下させ、脳の萎縮が進んでしまうものです。周囲への興味がなくなったり、ついさつきした行動をすぐに忘れてしまったりということが、急激に進むことがあります。

脳血管性痴呆は、脳の血管が詰まったりした後、周

●痴呆の人への対応のポイント

【意欲の活性化・生き生きさせるよい刺激を】

痴呆であっても、昔からこなしてきた家事や仕事は

健康だより

なります。

【急激な環境の変化に注意】

長年連れ添った家族や仲のよかつた友だちを失うということは、生涯のなかでだれもが経験することです。急に気持ちが悪く感じたり、急に閉じこもりがちになったり、急に痴呆が始まってしまうことがあります。周囲の人が声をかけてあげるとか、様子を見にいったりするとか孤独に浸らないように見守ってあげましょう。

